

宗教には「戒律」という言葉があります。仏教では、「戒」は仏教徒が自発的に守るべき規範、「律」は教団の中で共に守るべき罰則のある規則を指します。

ここでは「戒」についてお話します。

お釈迦さまは、修行者が煩惱の悩みを告白した懺悔(さんげ)を基に、仏教の正しい道に導く道しるべとして「戒」を定められました。

そして、道元禅師はこの中から「仏祖正伝菩薩戒作法」として、中国の如浄禅師から伝授されたとされる「十六条戒」つまり十六条の戒法を日本にお伝えになりました。

それは、お釈迦さまと、その御教え、教えを信じて集まるお仲間、つまり三宝に帰依する「三帰戒(さんきかい)」と、一切の悪い事をせず、一切の善い行いをし、一切の人の為になることをする「三聚浄戒(さんじゅじょうかい)」という菩薩戒の基本の上に、さらに「十重禁戒(じゅうじゅうきんかい)」、即ち、命あるものを殺さず、人のものを盗まず、淫欲を貪らず、嘘を言わず、酒を人にすすめ道を誤らせず、他人の過ちを言いふらさず、自分をほめ他人をそしらず、他人に教えや財物を施すことをおしめず、いからず、仏法僧の三宝をそしらず。という十の戒めを含んだ十六条をいいます。

「戒」を授かるということは、日々の行いを「戒」に照らし合わせ、道を誤っていたことを自覚し、仏様の前で懺悔し、これからの生き方に活かしていくお誓いをすることをいうのです。

これを、参加型の儀式にしたものが「授戒会」です。「戒」はインドの古い言語で「シーラ」といいます。四月には、大本山永平寺や大本山總持寺において「授戒会」が行われますが、別名「尸羅会(しらえ)」ともいわれるのはそこから由来しています。仏教の教えと「戒」について聞き学び、仏様を礼拝し、特定の期間に修行をし、仏様としてのお名前を授かるという行事です。

曹洞宗の檀信徒の方が亡くなり、葬儀の際に仏様としてのお名前、「お戒名」をお授けするのは、この形式をなぞらえているのです。「戒」とは、その人の生き方に深く関わるものであり、仏教徒としてのあかしでもあるのです。

お釈迦さまから^{だるまだいし}達磨大師、^{によじょう}如浄禅師、^{どうげん}道元禅師、^{けいざん}瑩山禅師^へを経て伝わった、遠く長い教えの道すじに、想いを馳^はせてみてはいかがでしょうか。

— 終 —